

可茂農林事務所の普及活動状況 令和7年10月8日現在

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻高温耐性品種「清流のめぐみ」の品質を確認 水稻生産者（美濃加茂市）

農林事務所では、美濃加茂市の水稲生産者の協力を得て、今年度から岐阜県が育成した高温耐性品種「清流のめぐみ」の試験ほ場を設置し、地域における品種の特性把握を行っている。

美濃加茂市内の試験ほ場において、成熟期となった「清流のめぐみ」の一部を刈取り、品質を確認した結果、高温により発生する未熟粒が少なく品質が高かった。

農林事務所では、収穫量や品質の調査を進め、高温耐性品種の地域適応性を確認するとともに、県奨励品種の決定後、早期に普及するための活動を継続する。（地域支援第一係）



【高温の影響を受けた白未熟粒】



【白未熟粒が少ない清流のめぐみ】

■水稻高温対策実証 水稻生産者（御嵩町）

近年の夏季高温により、水稻の収量・品質の低下がみられる。

その原因のひとつが、省力化を目的に導入されている基肥一発肥料が高温で想定より早く溶け出し、穂肥が必要な時期に肥効が不足していることが考えられる。

今年度は、可見地域の主力品種「ほしじるし」にて、後半の溶出割合を高めた肥料の実証ほ場を、JA全農岐阜、JAめぐみのと連携して設置し田植え時から定期的に生育調査を行ってきた。

9月22日、成熟期を迎えた実証ほ場にて生育調査（稈長・穂長・穂数等）と坪刈りを行った。今後、刈り取った稲の脱穀調製を行い、収量および品質について調査し、改良肥料の現地への普及性を検討していく。

農林事務所では、水稻の収量・品質の向上や省力化、コスト低減などにつながる技術の現地導入に引き続き取り組んでいく。（地域支援第二係）



【成熟期調査の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■地元産の高品質な栗の出荷をめざして 栗生産者（八百津町）

八百津町では、地元菓子業者に町内産の栗を活用してもらい、地産地消の推進を図るため、栽培者の増加と生産量の拡大に取り組んでいる。

今年は、夏季の高温と少雨の影響により早生栗の出荷が例年より遅れたが、9月に入り本格的な出荷が始まった。

農林事務所では、栽培講習会などを通じて、栽培技術の向上を支援しており、9月5日に栗の選果・選別方法に関する講習会を町と協力して開催し、8名の生産者が参加した。

講習会では、シワ果、病虫害被害果、裂果などの出荷できない栗について説明したほか、生産者が持参した栗を用いて選別作業を行い、参加者間で目揃いを実施した。

農林事務所では、今後も栽培講習会などを通じて栗の生産拡大を図るとともに、品質の高い栗の安定的な生産・出荷を支援していく。（園芸産地支援係）



【栗選果選別講習会の様子】